

教 科 国語

科目	現代の国語	(必修)	授業時数	1 単位
			履修学年	1 学年

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 倫理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることが出来るようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-----	---

●学習内容

1 学期	1 2 時間	2 学期	1 5 時間	3 学期	1 2 時間
○文章に含まれる情報を相互に関係づけながら内容を理解しよう 『「未知」はいくらでもある』宮内悠介 ・実体験を踏まえて提示された「未知」に対する筆者の捉え方を理解し、自分に照らして考えを深める。 ●領域【読むこと】	4	○情報を整理して相手にわかりやすく伝えよう 「法律の改正に関わる文章を読み比べる」・改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連付けながら理解した事をまとめる。 ●領域【読むこと】	7	○表現の多様性について考えよう 「待遇表現」 ・敬語の表現について学ぼう。 ●領域【話すこと・聞くこと】	5
○様々な表現方法で相手にわかりやすく伝えよう 「話し方の工夫」 ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解し、相手や目的などに応じたより伝わり保表現方法を学ぶ。 ●領域【話すこと・聞くこと】	8	○様々な表現方法で相手にわかりやすく伝えよう。 「書き方の基本レッスン」 ・表記表現の基本ルールを理解するとともに接続表現の種類や用法、比喩などの技法を理解する。 ●領域【書くこと】	8	○手紙を書こう 「実用的な手紙の書き方」 ・実用的な手紙文として、依頼文と案内文の書き方を理解し、実践する ●領域【書くこと】	7

領域ごとの 授業時数合計	【話すこと・聞くこと】 1 3 時間（4 5 分授業）	【書くこと】 1 5 時間（4 5 分授業）	【読むこと】 1 1 時間（4 5 分授業）
-----------------	--------------------------------	---------------------------	---------------------------

教材
「高等学校 新編 言語文化」(第一学習社)

授業の進め方
・授業を受ける姿勢を自ら取るように心がけること。指定された自分の座席に着席し、教科書、筆記用具を常に整備し、授業開始においては机上に揃えること。毎時間の取り組み方が習慣化されてこそ、学力向上につながります。 ・基本的な学習習慣を身につけさせ、その定着を図る。そのために漢字や語句の意味などは繰り返し取り組ませる。 ・「読む」「書く」だけでなく「話すこと」「聞くこと」も学ぶため自然と意見が言いやすい環境を作る。 ・日頃の生活の中にも国語力を身につける機会がたくさんあることを伝え、情報を、受け身で得るだけではなく、自ら調べ探求する意識を持たせる。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	国語の知識や技能を身につけ適切に使える。	他者と認め合いながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。	自分の考えを言葉でしっかりと伝えられそうすることで積極的に他者や社会と関わろうとしている。
評価方法		ペーパーテストで知識や理解を問う。	ペーパーテストの結果や課題の提出、授業中の発言など。	授業中の発言内容や取り組みの姿勢態度。

単元別 評価規準

1 文章に含まれる情報を相互に関係づけながら内容を理解しよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。	世界の捉え方について自分の意見や考えを論述する。	積極的に場の状況に応じて言葉遣いを選び、使おうとしている。

2 様々な表現方法で相手にわかりやすく伝えよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	様々な表現方法で相手にわかりやすく伝えよう。	相手に伝わりやすい表現方法を理解している。	積極的に場の状況に応じて言葉遣いを選び、使おうとしている。

3 情報を整理して相手にわかりやすく伝えよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	実社会において必要量を増やすとともに用法を理解しそれらを使うことで語感を磨き語彙を豊かにしている。	自分の考えが的確に伝わるよう、根拠に示し方や説明の仕方を工夫している。	複数の文章から読み取った情報をまとめてききてが理解しやすいように伝えようとしている

4 様々な表現方法で相手にわかりやすく伝えよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	実社会において必要量を増やすとともに用法を理解しそれらを使うことで語感を磨き語彙を豊かにしている。	自分の考えが的確に伝わるよう、根拠に示し方や説明の仕方を工夫している。	複数の文章から読み取った情報をまとめてききてが理解しやすいように伝えようとしている

5 表現の多様性について考えよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	コミュニケーションを取る際に言葉を使い分けている。なぜそれが必要かを理解している。	敬語表現を意識した言葉遣いを相手や場に応じた表現が選択できるようになる。	積極的に敬語表現を理解し、学習課題に沿って使おうとしている内容や構成、論理の展開を的確に捉え表現しようとしている。

6 手紙を書こう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。	相手に情報を適切に伝える文章の書き方を習得している。	教科書を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に依頼文や案内文を書こうとしている。

教 科 国語	科目	言語文化	(必修)	授業時数	1 単位
				履修学年	1 学年

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

●学習内容

1 学期	1 2 時間	2 学期	1 5 時間	3 学期	1 2 時間
○小説を読もう 「島の少年」内海隆一郎 ・登場人物の心情を読み解き、少年中心の展開を捉える。をもとに人間の生き方を考える。 ●領域【読むこと】(近代以降)	5	○漢文に触れ、訓読してみよう 「漢文の学習」「訓読に親しむ」(一) ・我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文への興味・関心を深め、返り点助字などの訓読の決まりを理解する。 ●領域【読むこと】(古典)	9	○和歌を鑑賞しよう 「万葉・古今・新古今」 ・作品に現れているものの見方や考え方を捉え、内容を理解する。 ●領域【読むこと】(古典)	6
○親しみある古典に接してみよう 「一休ばなし」 ・一休のとんち話を使い古文を読む基本を理解し、古文の文章になれる。 ●領域【読むこと】(古典)	7	○表現の異なる詩を味わおう 小景異情(室生犀星) I was born(吉野弘) ・文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解し、作品にこめられた作者の思いを読み取る。 ・散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取る。 ●領域【読むこと】(近代以降)	6	○伝統文化を知ろう 祭りの笛(三浦哲郎) ・我が国の伝統行事について書かれた文章を読んで、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する。 ・「祭り」をテーマに随筆を書く。 ●領域【書くこと】	6

領域ごとの 授業時数合計	【読むこと】(近代以降) 1 1 時間 (4 5 分授業)	【読むこと】(古典) 2 2 時間 (4 5 分授業)	【書くこと】 6 時間 (4 5 分授業)
-----------------	----------------------------------	--------------------------------	--------------------------

教材	授業の進め方
「高等学校 新編 言語文化」(第一学習社)	・授業を受ける姿勢を自ら取るように心がけること。指定された自分の座席に着席し、教科書、筆記用具を常に整備し、授業開始においては机の上に揃えること。毎時間の取り組み方が習慣化されてこそ、学力向上につながります。 ・基本的な学習習慣を身につけさせ、その定着を図る。そのために漢字や語句の意味などは繰り返し取り組ませる。 ・「読む」「書く」だけでなく「話すこと」「聞くこと」も学ぶため自然と意見が言いやすい

--

環境を作る。 ・日頃の生活の中にも国語力を身につける機会がたくさんあることを伝え、情報を、受け身で得るだけではなく、自ら調べ探求する意識を持たせる。
--

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	国語の知識や技能を身につけ適切に使える。	他者と認め合いながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。	自分の考えを言葉でしっかりと伝えられそうすることで積極的に他者や社会と関わろうとしている。
評価方法		ペーパーテストで知識や理解を問う。	ペーパーテストの結果や課題の提出、授業中の発言など。	授業中の発言内容や取り組みの姿勢態度。

単元別 評価規準

1 小説を読もう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・文語の決まりを理解しているか。	・文章の内容や構成展開を的確に捉え理解しているか。	・積極的に音読ができるか。

2 親しみある古典に接してみよう

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・文語の決まりを理解しているか ・文字の変化について理解しているか。	・文章の内容や構成展開を的確に捉え理解しているか。	・古典に興味を持ち、積極的に学んでいる。

3 漢文に触れ、訓読してみよう

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・返り点、助字、再読文字など、訓読に必要な決まりを理解している。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈しているか。	・漢文に興味を持ち、積極的に学んでいる。

4 表現の異なる詩を味わおう

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解している。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈している。 ・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈しているか。	・繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしているか。

5 和歌を鑑賞しよう

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	・文語の決まりを理解する。語句の量を増やし、語彙を豊かに出来たか。	・和歌の内容や構成、展開などを的確に捉えられているか。	・積極的に音読ができるか。

6 伝統文化を知ろう

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	(身に付ける力)	・随筆という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に理解している。	・我が国の伝統行事について書かれた文章を読んで、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する	・我が国の伝統行事についてものの見方を深めようとしている。「祭り」をテーマに随筆を書く。

教 科 国語

科目	現代の国語	(必修)	授業時数	1 単位
			履修学年	2 学年

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 (2) 倫理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることが出来るようにする。 (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
-----	---

●学習内容

1 学期	1 2 時間	2 学期	1 5 時間	3 学期	1 2 時間
○文章に含まれる情報を相互に関係づけながら内容を理解しよう。 「ナマケモノになる」辻 信一 ・筆者がナマケモノから学んだことを理解し、「ナマケモノになる」事の意味について考える。 ●領域【読むこと】	6	○自分の考えが的確に伝わるように文章や会話の構成や展開のする方法を学ぼう。 「相手に伝わる案内をする」 ・相手に配慮しながらその場の状況を押さえる的確に案内する方法を学ぶ。 ●領域【話すこと・聞くこと】	7	○文章に含まれる情報を相互に関係づけながら内容を理解しよう。 「十六歳のとき」星野道夫 ・人生の岐路となった筆者の旅を追体験することにより、世界にはさまざまな出会いがあることを知る。 ●領域【読むこと】	4
○様々な表現方法で相手にわかりやすく伝えよう 「スピーチで自分を伝える」 ・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ●領域【話すこと・聞くこと】	6	○資料を効果的に使い、理解を得られる表現を工夫しよう。 「身近な製品の取扱説明書を作成する」 ・情報を的確にわかりやすく説明する方法を学ぶ。 ●領域【書くこと】	8	○意見文を書く 「社会に対する意見文を書く」 ・意見文とはどういうものかを理解し、自分の経験の中から意見を導き出せるようにする ●領域【書くこと】	8

領域ごとの 授業時数合計	【話すこと・聞くこと】 1 3 時間 (4 5 分授業)	【書くこと】 1 6 時間 (4 5 分授業)	【読むこと】 1 0 時間 (4 5 分授業)
-----------------	---------------------------------	----------------------------	----------------------------

教材
「高等学校 新編 言語文化」(第一学習社)

授業の進め方
・授業を受ける姿勢を自ら取るように心がけること。指定された自分の座席に着席し、教科書、筆記用具を常に整備し、授業開始においては机上に揃えること。毎時間の取り組み方が習慣化されてこそ、学力向上につながります。 ・基本的な学習習慣を身につけさせ、その定着を図る。そのために漢字や語句の意味などは繰り返し取り組ませる。 ・「読む」「書く」だけでなく「話すこと」「聞くこと」も学ぶため自然と意見が言いやすい環境を作る。 ・日頃の生活の中にも国語力を身につける機会はたくさんあることを伝え、情報を、受け身で得るだけではなく、自ら調べ探求する意識を持たせる。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	国語の知識や技能を身につけ適切に使える。	他者と認め合いながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。	自分の考えを言葉でしっかりと伝えられそうすることで積極的に他者や社会と関わろうとしている。
評価方法		ペーパーテストで知識や理解を問う。	ペーパーテストの結果や課題の提出、授業中の発言など。	授業中の発言内容や取り組みの姿勢態度。

単元別 評価規準

1 文章に含まれる情報を相互に関係づけながら内容を理解しよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	比喩などの修辞について理解を深めている。	自分の考えが的確に伝わるよう、根拠に示し方や説明の仕方を工夫している。	積極的に場の状況に応じて言葉遣いを選び、使おうとしている。

2 様々な表現方法で相手にわかりやすく伝えよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	話し言葉の、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解を深め使っている。	相手に伝わりやすい表現方法を理解している。	進んで表現や話し方を工夫し、これまでの学習を生かして効果的に話そうとしている。

3 自分の考えが的確に伝わるように文章や会話の構成や展開のする方法を学ぼう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	目的に沿って的確に、相手にも配慮した案内の方法を理解している。	相手や場の状況を押さえて案内することが出来る。	進んで表現や話し方を工夫し、これまでの学習を生かして効果的に話そうとしている。

4 資料を効果的に使い、理解を得られる表現を工夫しよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	情報をわかりやすく説明する方法を理解している。	図や写真を用いて説明の仕方を工夫している。	教科書を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に説明書を書こうとしている。

5 文章に含まれる情報を相互に関係づけながら内容を理解しよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	言葉には、認識や思考を支えるはたらきがあることを理解する。	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。	本文を粘り強く読み、個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。

6 意見文を書こう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さなどに配慮した表現について理解を深め使っている。	相手に情報を適切に伝える文章の書き方を習得している。	教科書を参考に、説明や表現の仕方を工夫して、積極的に意見文を書こうとしている。

教科 国語	科目 言語文化	(必修)	授業時数	1 単位
			履修学年	2 学年

目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
	(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
	(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

●学習内容

1 学期	1 2 時間	2 学期	1 5 時間	3 学期	1 2 時間
○漢詩の決まりを理解しよう 「春曉」「静夜思」「送元二安西」「春望」 ・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ●領域【読むこと】（古典）	7	○小説を読もう 「羅生門」（芥川龍之介） ・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ●領域【読むこと】（近代以降）	8	○古典に親しむ 「児のそら寝」 ・説話をとおして現代にも通じる人間のありようを味わい、古文の世界への親しみを深める。 ●領域【読むこと】（古典）	7
○伝統文化に触れてみよう。 「大切な言葉」（石川啄木・与謝野晶子・俵万智） ・我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。 ●領域【読むこと】（近代以降）	5	○随筆を読もう 「枕草子」（清少納言） ・当時の人々の生活感覚を反映した文章を読んで、古文に表れたものの見方・考え方の一端に触れる。 ●領域【読むこと】（古典）	7	○日本の伝統文化に触れてみよう。 「手毬唄」（高浜虚子・種田山頭火・三橋鷹女・黛まどか） ・我が国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。 ●領域【書くこと】	5

領域ごとの 授業時数合計	【読むこと】（近代以降） 1 4 時間（4 5 分授業）	【読むこと】（古典） 2 1 時間（4 5 分授業）	【書くこと】 5 時間（4 5 分授業）
-----------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------

教材	授業の進め方
「高等学校 新編 言語文化」（第一学習社）	・授業を受ける姿勢を自ら取るように心がけること。指定された自分の座席に着席し、教科書、筆記用具を常に整備し、授業開始においては机上に揃えること。毎時間の取り組み方が習慣化されてこそ、学力向上につながります。 ・基本的な学習習慣を身につけさせ、その定着を図る。そのために漢字や語句の意味などは繰り返し取り組ませる。 ・「読む」「書く」だけでなく「話すこと」「聞くこと」も学ぶため自然と意見が言いやすい環境を作る。 ・日頃の生活の中にも国語力を身につける機会はたくさんあることを伝え、情報を、受け身で得るだけではなく、自ら調べ探求する意識を持たせる。

●評価規準（身に付ける力）

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	国語の知識や技能を身につけ適切に使える。	他者と認め合いながら、自分の考えを深めたり広げたりしている。	自分の考えを言葉でしっかりと伝えられそうすることで積極的に他者や社会と関わろうとしている。
評価方法		ペーパーテストで知識や理解を問う。	ペーパーテストの結果や課題の提出、授業中の発言など。	授業中の発言内容や取り組みの姿勢態度。

単元別 評価規準

1 漢詩のきまりを理解しよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・漢詩のきまりや、表現の技法とその効果について理解しているか。	・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しているか。	・積極的に音読ができるか。

2 伝統文化に触れてみよう。

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・特徴的な表現の技法とその効果について理解しているか。	・文章の内容や構成展開などについて叙述を基に的確に捉え理解しているか。	短歌の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって短歌文芸に親しもうとしているか。

3 小説を読もう

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・語句の量を増やし、語彙を豊かに出来たか。	・文章の内容や構成、展開などを的確に捉えられているか。	・積極的に音読ができるか。

4 随筆を読もう

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・文語のきまりや古典特有の表現などについて理解を深めているか。	・作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈しているか。	・積極的に音読し作品を理解しようとしているか。

5 古典に親しむ

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・古今異義語について、文語のきまりを理解しているか	・文章の内容や構成、展開などを的確に捉えられているか。	・積極的に音読ができるか。

6 伝統文化に触れてみよう

評価の観点		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
評価規準	（身に付ける力）	・俳句という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に理解している。	・我が国の伝統的文章を読んで、内容を効果的に伝えるための筆者の工夫を理解する。自ら俳句を作ってみる。	・俳句の形式や表現を進んで理解し、学習の見通しをもって俳句文芸に親しもうとしている。

課程 定時制

教科	国語	科目	国語表現Ⅰ	単位数	2	学年	4	科	基礎工学科・建築科
----	----	----	-------	-----	---	----	---	---	-----------

1、科目の目標

日本語の表現の特色について学び、正確な言語表現ができる力をつけることを目標とする。自分が考えたことを、他人にわかるように文章に作り上げたり、話をしたりするにはどうすればよいかを学ぶ。また、実際の就職試験、入学試験の問題を演習することで、国語の知識を確かなものにする。

2、使用教科書・副教材

国語表現Ⅰ改訂版（教育出版）

3、学習の計画

		学習の内容	考查範囲	予定時数
一 学 期	4月	『ことばに変える』 ・国語の表現の特色、語句や語彙、言語の役割を理解する。語彙を豊かにするためにさまざまな語句の意味や表現の中での用い方を学ぶ。 『声の表現』 ・表現の手段である発声・発音への関心を高め、音声表現による表現方法の基礎を学ぶ。	期末考查	2 6
	5月			
	6月			
	7月			
二 学 期	8月	『コラムを書く、本を作る』 ・出来事や対象を正確にとらえ、的確に表現するために、客観的描写という文章作成の基本技法を身につける。 ・記録文、旅行記、説明文の特徴や必要性を学び、「説明」の観点や展開の仕方について理解する。 『ことば遊びと創作』 ・さまざまな言葉遊びの体験をとおして、言語表現の多様な側面を理解する。	中間考查	1 4
	9月		期末考查	1 4
	10月			
	11月			
三 学 期	12月	『ことばと人間』 ・ことばと人間とのかかわりについて理解し、具体的な言語表現活動に役立てるための認識を養う。 『小論文・レポートを書く』 ・自分のこれまでの体験を見つめなおし、日常生活の中で自明とされていることを問い直しながら、自分の考えを論述する技法を学ぶ。	期末考查	1 6
	1月			
	2月			
	3月			

合計 70 時間

4、評価の方法

授業中の課題への取り組む姿勢、課題の内容の評価、課題提出の状況を最重要観点として評価し、出席状況、定期考查の得点を加味し、総合判断して各学期の評定及び学年末の単位認定の可否を決定する。

5、学習にあたっての注意とアドバイス

コミュニケーション能力を支える語彙・漢字・表現力・教養などを身につけるためには、日常的に自ら学ぶ姿勢をもち、さまざまな文章を読んで、自分の考えを深め、発展させながら、表現してみることが有効です。

教科担当者 田中 秀人